



2025 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 7

SUPERBIKE RACE in SUZUKA



- 三重県
- 鈴鹿サーキット
- 1周=5.821km

- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 **関口 太郎**

RACE 1 10月25日(土) 天候: 雨 コース: ウエット
予選 12 番手 (タイム: 2分08秒069)
決勝 8 位

RACE 2 10月26日(日) 天候: 雨 コース: ウエット
予選 12 番手 (タイム: 2分08秒163)
決勝 10 位

シリーズランキング: 9 位



三明電気工事



シリーズランキング9位で2025年シーズンを終える

10月25日(土)・26日(日)に三重県・鈴鹿サーキットで全日本ロードレース選手権最終戦が行われた。今回は公式の事前テストはなく、木曜日の特別スポーツ走行からセッションが始まった。今年も最終戦には、アルファレーシングのジュリアンと呼び寄せ、キットエンジン“Type7.2”を投入。来シーズンは、BMW M1000RRの新车に乗り換えるため、2022年から4シーズン使ってきた現マシンでは、最後のレースとなるだけに集大成にしたいところだった。もちろん、自己ベスト更新となる2分05秒台を狙っていた。



走行初日は、前戦岡山での電気系トラブルを解決すべく、ジュリアンに相談しながら原因を探っていたが、1本目は、計測3周しかできず簡単な問題ではなかった。2本目のセッション終盤ようやく原因が分かったが、初日はトラブルシューティングに終始した。金曜日からセットアップを開始し、足回りと電気のセッティングを詰めていく。その中で、2本目にクリアラップが取れない中で2分08秒078をマークできていたため、予選でアタックすれば、2分06秒台には入る手応えは感じていた。



週末の天気予報は雨マークが並んでいた。その予報通り、朝まで雨が降っていたが、走行が始まるころには雨は止んでいた。JP250、J-GP3とセッションが続いたが、気温も低く、なかなか路面は乾かない状況だった。それでもレコードラン上はほぼ乾き、セッション終盤の勝負になることは明らかだった。関口はコンディションを確認しつつタイムアタックに入ると2分08秒163、2分08秒069を立て続けにマーク。これがベストとセカンドベストとなり、両レースとも12番手グリッドからスタートすることになった。



その後、レース1のグリッドに着くと、雨は本降りとなり、ウェットレースとなる。実は、このときが“Type7.2”エンジンで雨を走るの初めてだったが、ウォーミングアップラップで思っていたよりも好感感があり、レース1に向けて自信を深めていた。



レースが始まると、リアのスリップが多かったため、トラクションコントロールを調整しながら走っていたが全く収まらず、“これはおかしいぞ?”と思った関口は、設定数を逆に振っていたことに気付く。その後、設定数を調整しトラクションコントロールが機能し始めると、リアのスライドも減りペースアップし1台をかわして10番手に。レース終盤に前で転倒があり9番手に浮上。さらに前を走るSDG Team HARC-PROの阿部選手に迫って行き、最終ラップに仕掛けようと思っていたところ赤旗が提示される。正式結果は8位となり、シングルフィニッシュを果たした。



日曜日朝から雨となり、ウォームアップ走行で足回りと電気を変更するとフィーリングもよく10番手タイムをマーク。レース2に向けて、いい方向に進んでいた。

JSB1000クラスはレース2もウェットレースとなったが、周回数の減算はなく、予定通り16周で争われた。関口は、好スタートを決めるが、1、2コーナーで行き場を失ってしまい減速を余儀なくされたところポジションを落としてしまう。オープニングラップは12番手だったが、1台ずつかわしていき、4周目には9番手に浮上。そのまま走行を続けていたが、後方から追いついて来たライダーに12周目にかかわされるものの、16周をしっかりと走り切り10位でチェッカーフラッグを受けた。

スポンサーの皆さま、そして応援して下さった皆さまのお陰で、無事に2025年シーズンを戦い終えることができました。ありがとうございました。いろいろ大変なシーズンでしたが、鈴鹿8耐ではチームベストを更新できましたし、全日本ではライダーランキングは9位、チームランキング8位と結果を残すことができました。来シーズンは、パワーアップした新型BMW M1000RRを駆り、トップブライベーターとしてさらに上位を目指しますので、引き続き応援よろしくお願ひ申し上げます。

関口 太郎

